

# “生活”&“エコ”公共投資の転換進む

## 公共事業

「生活密着型」と「公共交通」へ転換

公共事業の基本計画である「国土整備プラン」が山本知事のもとで見直されましたが、その大きな柱は「防災・減災対策」「持続可能なインフラの維持」「公共交通の確保」であり、大沢県政の象徴であった「7つの交通軸」などの大型道路整備中心から、**県民生活に密着した事業への転換**が打ち出されました。

新年度予算では、財政の厳しさから公共事業費総額は減額されたものの、道路などの維持管理予算は堅持し、**地域の身近な要望に応える事業予算を確保**しようとする姿勢は評価できます。

また、公共交通も、記事にある路線バスのICカード導入などの**利便性向上策**に加え、新型コロナ対策としてバス・タクシー内の抗菌コートや高性能空気清浄機の導入支援策が盛り込まれました。

この支援策も、コロナで打撃を受ける交通事業者を単に救済するのではなく、**将来に渡り持続可能な経営ができるための投資に支援**するという視点となっています。

### ICカード「ノルベ」導入

県は18日、県内バス事業者6社が中心となり、**ICカード「ノルベ」を導入**することを発表した。乗車券や電子マネーなど「Suica」の機能や定期券、地域独自の割引サービスなどを利用できる。カードを導入するのは上信電鉄、群馬中央バス、日本中央バス、群馬バス、矢野タクシー。県内では、関越交通やジェイアールバス関東などで既にICカードが導入されており、新カードの導入で県内バス路線のICカード普及率は約8割になる。県民の乗入時期や対応路線は今後発表する。



県内路線の8割がICカード化するよ。既に導入されている「乗換検索」と「位置情報」がネットで見られるサービスもあるからグッと便利に！

## 再エネ

「P2G」実現に向け一歩

水素は、二酸化炭素を排出しないエネルギーとして、**温暖化対策の切り札**として期待されています。

同時に、太陽光や風力などの再エネが飛躍的に普及しているドイツなどでは、**余剰電力から水素を造る「P2G (Power to Gas)」の導入が進んでいます**。これにより、**余剰電力を水素に変換することで、蓄電と同様に「貯蔵」でき、再エネの弱点である出力変動の大きさを克服する切り札**としても期待されています。

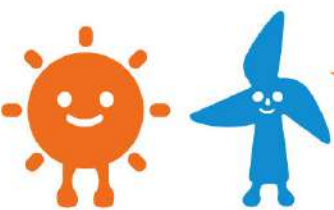
後藤は、山梨県が東電などと共同で、太陽光の電力から水素を製造し、これを工場での熱利用や、商業施設での燃料電池利用の実証実験を調査。改めて、水素の無限の可能性を実感しました。

群馬県も、新年度予算で「**水素エネルギー活用調査研究**」として、**3,300万円を計上**し、本県での「P2G」導入への一歩を踏み出しました。

山本知事の掲げる「**温室効果ガス排出量ゼロ、自立分散型社会**」の実現に向け、夢のある施策と期待されています。



太陽光の電力から水素を製造・活用する実証事業を進める、山梨県企業局の施設を調査



僕たちがもっと活躍できるために、水素は大切な役割を果たすんだね。

## 地域課題三二報告 豊岡地区 国道406号君が代橋西交差点改良事業が完了



平成25年に行われた地元説明会の様子



これまでの朝の深刻な渋滞が嘘のように改善！

豊岡地区最大の懸案の一つであった国道406号の渋滞対策。区長会や地権者の皆様などの協力により、無事完了しました。

